

◎プロフィール

名前：光成 沙也加 (MITSUNARI Sayaka)
隊次：2021年度4次隊 (2022/4～2024/4)
職種：看護師
派遣国：マダガスカル
任地：アンチラベ (首都から南に車で4時間)



◎お母さんたちと栄養すごろく実施！

低栄養の子どもとお母さんたちが通っている施設で栄養すごろくをやってみました。この栄養すごろくは先輩隊員が成果品として残してくださったもので、すごろくの中で買い物をしながら**栄養素や金銭の管理の勉強**ができるものになっています。

すごろくを始める前に、保健ボランティア(AC)さんから**栄養素の働き**について説明をして、お母さんたちに復習してもらいました。ACさんは7つの栄養素の働きを説明しながら時々お母さんに質問を振って、上手に**お母さんたちの学ぶ意欲**を引き出していました。

栄養すごろくは、サイコロを振ってとまった場所に描かれた野菜や果物を買うか買わないか選択しながら、7つの栄養素の食べ物を集めていくというゲームです。初めは、とまった場所の食べ物を全て買っていきこうとしていたお母さんたちも、「**同じ栄養素のものばかり買って栄養は摂れないよ**」というACさんの声かけで買うものを取捨選択できるようになっていました。また、「この食べ物はキライで食べないから買わない!」というお母さんもいて、ゲームの中でも現実の買い物をしているように楽しんでくれているようでした。



ACさんが栄養素の説明中



すごろくをするお母さんたち



購入した食べ物の収支と栄養素を記載中

◎日本文化紹介～七夕編～

日本語や日本文化を教えている空手道場で、マダガスカル人の師範と子どもたちに七夕の文化紹介を行い、一緒に七夕飾りを作りました。七夕には短冊に願い事を書いて飾ることを説明し、子どもたちに**願い事**を書いてもらいました。「**お金持ちになりたい、iPhoneが欲しい、道場に畳が欲しい、医者になりたい、両親に長生きして欲しい**」など、個性のあるいろいろな願い事が書かれていました。そして折り紙で七夕飾りも作りました。折り紙から立体的なものができることに驚きながら、自分たちで作った貝殻や提灯の飾りをととても喜んでいました。



短冊に願い事を書く子どもたち



◎マダガスカル人の割礼を見学！

マダガスカルでは割礼(ディディポチャ)という伝統的な文化があります。男の子は2～3歳頃までに全員行い、冬の時期である6月～8月が割礼の時期だそうです。

今回活動先の保健センターの医師が教会で処置をするとのことで、見学させていただきました。教会での処置は無料ですが、保健センターや病院で処置する場合は4万アリアリ(約1200円)かかるそうです。今回は24人の3歳までの男の子が割礼を受けました。早朝に教会へ連れて来られた、理由の分からない男の子たちは、最初眠たそうにボーッとしていましたが、麻酔の注射を打たれると驚いて大泣きするので、家族が2人がかりで男の子を押さええていました。イソジンで消毒後、鉗子で固定して、電気メスで包皮を切り取ります。最後に創部を消毒してワセリンを塗って終了です。帰宅後は感染予防に抗生剤を飲むそうです。終了後に男の子たちはオモチャをもらって帰って行きました。

また、切り取った皮膚のことを“ルアツィツィ”と言い、家族は家に持ち帰っていました。理由を聞くと、その日は家族でパーティーをし、持ち帰った“ルアツィツィ”をその子のおじいちゃんがバナナの中に入れて生で食べる慣習があるからだそうです、、！！

ちなみに周りの男性に聞くと、割礼のことは覚えておらずトラウマもないとのことでした。男子割礼は清潔に処置をすれば、汚れも溜まりにくく感染症のリスクも減るので、毎日シャワーを浴びる習慣のないマダガスカルではメリットではないかと思いました。



医師2名で処置中



処置前の麻酔中



使用していた電気メス



オモチャをもらった
割礼後の男の子

◎マダガスカル人は遊び上手！

最近、近所の子どもたちが広場で走り回ってワイワイしている声が聞こえてきました。見に行くと、**廃材で作った手作りの凧揚げ**で遊んでいました。ちょうど子どもたちのお父さんが新しい凧を作っていたので、作っているところを見せてもらいました。

材料は、パスタの入っていた捨てるはずの**ポリ袋**とどこからか拾ってきた**ビニール紐**、落ちていた**細い木の枝**と**植物のトゲ**。パスタのポリ袋を凧の本体の形に切り、木の枝を骨組みにして、植物のトゲを使ってポリ袋と木の枝を固定していきます。その後、余ったポリ袋で凧の足を作ってトゲで留め、ビニール紐を取り付けます。ビニール紐の長さを調整できるように、拾ってきた缶に紐を巻き付けて完成！！

ないものはあるものを使って生み出す、創造性の豊かなマダガスカル人を見ていつも感心しています。



お父さん特製凧！